



加藤 元の



と暮らして  
みませんか

39

哺乳動物は、原則として歯を持っています。

象の門歯は、一生成長を続けて巨大な牙となっていて、リスやねずみなどの齧歯類やうさぎなども、門歯（切歯）は一生成長を続けることは象の牙と同じです。

歯の形は、人を含めて動物の食餌内容により決まってきました。肉食獣は肉食獣、雑食動物は雑食動物として、門歯、犬歯、前臼歯、後臼歯などの形が決まっています。一方、草食動物では門歯、犬歯は別として、前臼歯と後臼歯の別がなく同型で、草や葉などの植物を適当な大きさにすりつぶして飲み込むことができるようになっていきます。

ところで、これらの哺乳動物の

## 犬の歯科

# 小型になるほど多い歯周病

うち、犬は肉食獣と分類されていますが実は雑食動物です。犬の歯には、どんな病気（問題）が起こるのかをよく見ておきましょう。

犬の乳歯は、三・五から四カ月で門歯から永久歯に変わり始めますから、人間の子供たちに最も多い虫歯になる暇ありません。

一方、意外に多いのが、歯並びの異常です。特に純粋種では、頭の形が品種によって大きく異なりますから、歯並びの異常もそれだけ多くなります。

さて、世界中の人間で最も多い歯の病気は、子供たちの虫歯は別として、歯石が基になる歯周病ですが、このことは犬の場合も猫の場合も同様です。犬の場合は、大型犬よりは中型犬、中型犬よりは小型犬で歯周病は起こりやすくなります。それというのも、小型犬では、物理的に歯が小さく、口の中に込み合った形で生えているからです。

このことから、歯垢（プラーク）、つまり細菌の集合体の作用で唾液が変化し、歯と歯肉の間に歯石となって硬く付着することになるのです。そうなると小型、中型、大型を問わず歯石がたまり、歯の周囲の組織が慢性の炎症つまり、歯周病が進み、人間と同様に歯を失うことになりやすいのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2005年1月16日掲載》